

# IBC2014 フィレンツェ 公開版

佐藤俊哉(京都大学医療統計)

## 2014年7月6日(日) レセプション

夕方、ホテルから会場に向かう。会場付近に到着したが、入口が見つからず名古屋の松井先生と合流。松井先生も一周したけど入口がない、とのことで、駅の方にもどって、ようやくビルから会場に入れることがわかり、レジストレーションを済ませる。中央大学の鎌倉先生、広島放影研の中島さん、大分大 和泉先生、名古屋医療センター嘉田さん、国循の高橋さん、千葉の佐藤先生などなどに会う。レセプションはなんの合図もなくずるずるとはじまり、恵子先生とスプマンテで乾杯。フードは軽いつまみのようなもので、チーズ、米のサラダ、フルーツくらい。それでも、なんだかんだでけっこうお腹はいい感じに。京大データサイエンス部の魚住さんも来ていた。

一昨年は神戸の IBC でいろいろとたいへんであったが、インドの会長ベンカテサンさん、マニパル大のネールさん、韓国の会長パクさん、南アフリカのピーターさん、イタリアの今回の責任者アドリアーノさん、IBS 元会長トム・ルイスさん、元会長アンドリュー・ミードさん、前回のプログラム委員長のクリスチンさん、事務局のディーアンさん、ブラジルのダルトン・アンドレドさんなどなど前回の IBC でお世話になった方たちと旧交を温める。千葉の佐藤先生とねっとりとお話しし、7 時ごろにホテルに帰ることに。サンタマリアノヴェッラ広場ではハードロックカフェのコンサートがたけなわ。

ホテルに戻って、イタリアのビールを飲み 12 時ごろ亡霊と化して寝る。

## 7日(月) Longitudinal Data Analysis

7時半前に朝食会場に降りていくと丹後さんのグループが食事中だった。挨拶して食事していると、和泉先生が合流。和泉先生は一昨日は群馬大 林先生とおなじホテルに泊まっていたのであるが、ゆうべからこのホテルサンタマリアノヴェッラに代わっている。どちらも4つ星なのに、サンタマリアノヴェッラのほうが食事も雰囲気もいいそうだ。

8時20分くらいにでかけ、なんとかオープニングセッションに間に合った。だからといってなにかあるわけではないのだが、オープニングにいないとみんなになにをいわれるかわからない。まあ例によって会長講演は早く終わったので、コーヒーを飲んだ後、寒水先生、データサイエンス部の山本先生と医療統計レポート課題の打ち合わせ。今年もなんとかレポートテーマが出そろった。久しぶりに現在イギリスに在住している第一三共の渡橋さんと再会する。IBC は講義、実習の真っ最中に開催なので、ホテルに戻って実習のレポートを読み継ぐ。お昼はbuffetがで、あまり食欲はなかったものの、生野菜、生ハム、チーズという定番のものを食べる。しかし、イタリアでは生ハムがこんなにポピュラーだとは思ってもよらなかった。(ただし、この日以降昼食から生ハムは消えた。)午後のセッションは14時からで、しかしひたす

らレポートを読み続ける。京都府立医大の手良向先生とご挨拶。赴任されてからはじめてお目にかかる。いろいろたいへんそうですが、がんばってください。午後のバイオマーカーの招待セッションが始まった。松井先生が2番目の講演。立派なものだ。

コーヒーはパスして座長のお仕事に別の建物へ移動。Longitudinal Data Analysis のセッションの座長を引き受けてくれ、とイタリアのアドリアーノさんからメールがきた。Longitudinal ならまあいいか、と軽い気持ちで引き受けたのだが、プログラムを見てびっくり。7題中 longitudinal は2題くらいで、マルチレベル解析はぎりぎりいいとしても、量反応関係や PCR データ解析まで混じっているのはなぜだ。質問がでなかったときの座長コメントなどはなからあきらめ、しかも座長がタイムキーパーもして、「あと5分」、「あと2分」、「STOP」なんてサインもださなければならないので講演を聞いているところではない。にもかかわらず、うち一題が学生のベストプレゼンテーションの候補になっているとかで、座長が採点するのでお願いね、とかいわれあっぷあっぷの1時間45分。まあつつがなく終わったとっておこう。

今晚は BrewDog Firenze へ。Punk IPA、Unleash American Ale、Zeitgeist、Jack Hummer のテイastingセットを頼み、フードメニューをみるとたいしたものはなく、どうも食事をするところではなさそうだった。すきっ腹に強いビールでできあがってしまい、重い食事はちょっと無理なので、水、ワイン、ビール、生野菜、パニーニを買い、ホテルでのんびり食事。量もちょうどよく部屋でのんびりできてよかった。

シャワーを浴びてビールを飲み、明日は10時すぎに行くことにして12時ごろ亡霊寝。

8日(火) 恵子先生ポスター発表

8時ごろに食事に行き、実習レポートを読み続け、10時前に会場へ。

会場に着くとコーヒーブレイクに Cox 先生がいて、千葉の佐藤先生が「Cox がいいますよ」とご注進に。次の招待セッションは、なんでも Multi-Arm Multi-Stage (MAMS) Design という複雑な話で、恵子先生は興味を持って聞いていたようだが、とにかく実習レポートを読んでしまわないことには話にならないので、フィレンツェにきてまでレポート三昧。セッションが終わったので恵子先生のポスターを貼りに行く。今回の学会は恵子先生の「統計家の行動基準」に関するポスター発表のお供。朝食を過ぎて食欲はないので、今日のお昼はパス。オーデトリウムで休んでいたらだんだん気分が悪くなってきて困った。しかし14時から Editorial Advisory Committee があるのでしぶしぶその会場へ。成蹊大の岩崎先生も奥さんを連れてきおり、あいさつする。Editorial Advisory Committee は激しく眠いのと気分が悪いのと英語がよく聞き取れないのとで、三重苦である。Membership priority がどうのこうの、という内容。1時間半くらい会議は続き、ようやく終わったのでポスターを見に行く。

恵子先生がポスターのところになかったので、仕方なくほかの人のポスターを見に行くと、広大の大瀧先生が疲れたと座り込んでいる。たしかに今回の会場は椅子がなく、ランチも立ち食いだし、たいへん疲れる。もっと座るところがあればいいのに。北大の伊藤先生と和泉先生が連名で発表しているポスターを説明してもらい少しコメント。嘉田さんにもポスター

を説明してもらおう。コーヒーを飲みに行くと、山本先生が「先生は Cox のディスカッションをみましたか」と興奮していた。なんと恵子先生も Cox 先生のセッションにいたとのこと。恵子先生のポスターにドイツの女性が興味を持ってくれたようで、お話しする。ドイツでも行動基準を作ろうとしたが、ほかの関連学会の足並みがそろわなかった、と、まるでどこかのような話である。

コーヒーブレイクも終わったので、ホテルに戻ることに。体調の悪さはいつもの時差病のせいだったようで、うそのように体調が戻ってきた。ようやく提出済のレポートはすべて読み終わり、後は寒水先生からレポート課題を受け取れば来週の講義と実習の準備は終了。今夜は *Cantinette Antenori* で和泉先生と一緒に食事。美術館のような古いビルの中にあり、すごく雰囲気の良いところである。メニューをみるとセコンド(メインのこと)は 20 から 30 ユーロとけっこうなお値段で、きっと量もすごいんだろうなと思われたが、セコンドは各自頼まなければいけないそうなので、アンティパストやプリモはパスして、お勧めを聞く。ビーフのローストとヴィール(仔牛)の冷製ツナソースがお勧めというので、恵子先生はビーフ、和泉先生はヴィール、わたしはシーフードサラダを頼み、さてこの料理に合うワインはと尋ねる。すると一杯 8 ユーロもする *Umbria* の赤が肉にもシーフードにも合うというのであるが、最初は白が飲みたいので白のお勧めも聞くと一杯 4.5 ユーロのワインをお勧めしてもらったのでまずはそれを頼み、次にお勧めの赤をもらうことにする。

最初の白が香りがよくてフルーティーでとてもおいしく、パンと一緒にいただく。メインが運ばれてきて、恵子先生のビーフはさすがにけっこうな量であるが、ヴィールとシーフードサラダは普通サイズで、これならぜんぜん OK。3 人でそれぞれをシェアし、シーフードはえびといかと白隠元をオリーブオイルでソテーしたものでおいしかったが、ヴィールもおいしかったし、ビーフに至っては頼んでよかった、というくらい。ヴィールのツナソースはみなさん食べたことのない味、というのだが、なんのことはない、鯖の水煮缶の味だった。次のお勧めの赤ワインが素晴らしかった。いままで飲んだ赤ワインの中で一番おいしかった。あまりのうまさに、別な赤のお勧めをもう一杯頼んだほどである。

恵子先生と和泉さんは冬に予定しているワークショップの打ち合わせ。ビーフでお腹は一杯になり、三杯目のワインは二杯目より深みがありおいしいことはおいしく、きっといいワインなのであろうが二杯目の驚きほどのことはなかった。帰る道々ジェラートを食べ、ホテルのレセプションで和泉さんと別れ、シャワーを浴びる。サッカーはブラジルが 5 対ゼロでドイツに負けていて、気がつくともう 7-0 になっていた。もうさすがにブラジルでもどうしようもないので寝る。

## 10 日(木) ウフィツィ&ディナー

実は昨日のエクスカーション日にウフィツィ美術館に行く予定で予約までしたのであるが、手違いにより予約は今朝になってしまった。ウフィツィ美術館には「ビーナスの誕生」があり、これを見るだけでも価値がある。恵子先生のポスターをはがしに行かないといけないので、

会場に向かう。ポスターをはがしてちょうど昼食の時間となったので、恵子先生はフルーツを、わたしは食べすぎのためプラム1個とチーズ一切れをかじって終わり。韓国のパクさんが通りかかり、お前 11 時の会議にこなかったなというので、実は昨日美術館の予約をしたつもりだったんだが、それが間違いでなんと今朝だったんだよ、というと笑っていた。寒水先生と教室への土産の話をして、チョコを買ってもらうことにし、寒水先生はポスターを貼りに。恵子先生はホテルに帰るというので、鎌倉先生、高橋先生、山本先生ん、みしらぬ若者と話す。鎌倉先生から日本で ISI をやらないかと言われているという話を聞く。なんでも 30 年くらいで回ってくるそうで、前回は 87 年なので確かにそろそろである。みなさん今晚のディナー会場まで歩いていくとか言っていたが、だいじょうぶか？

ポスターを見て、東大の篠崎先生と少し話す。かなり複雑なことをやっていて、もっと簡単にできないのか、などと文句をいう。その後ドイツ支部主催のセッションを聞きに。リトル先生とカーペンター先生が 2 枠使ってねつとりと欠測データの話をする、という変わったセッションで、データサイエンス部川口先生の講演を見に行くつなぎで入ったのだが、パワーポイントの資料が配られていて、これをゲットできたのはもうけものだった。リトルさんのお話の途中で失礼して川口先生の講演へ。久留米の荒木先生と名古屋の高橋先生も聞きにきていた。

もう今日はいいいことにして、駅でディナー会場のミケランジェロ広場行きの 12 番のバス乗り場をチェックしてホテルに戻る。12 番のバスに乗り 2 ユーロのチケットを買い出発。バスはけっこう大遠回りして渋滞にも巻き込まれ、40 分くらいかかってようやくミケランジェロ広場の La Loggio に到着。スプマンテをもらい、驚いたことに山本先生たちはもう着いていて、ほんとに歩いてきたのと聞くと、「50 分くらいかかりました」とのこと。前回の IBC のときに作った法被をきてディナーに臨む。と、みしらぬ若者が「このねずみはなんですか」などといっているのでも無然とする。着席とのことで室内に。山本先生たちとはぐれてしまい(彼らは外に座ったとのこと、寒かったらしい)、ふたりで座っていると、ここいいですかとオランダのグループ 4 人が座り、さらにルーマニアのダニエルさんと奥さんが座り、もはやわやである。

ワインを飲み料理を待つがこれまた 9 時過ぎてようやくサーブがはじまった。隣に座ったオランダ人は神戸にも来たとのことであつこう話が盛り上がる。なんでもたけしの映画が好きとのことで、こちからはそんなもの一本たりともみたことがない。食事は着席の HALF コース、野菜のプディングとトマトのブルスケッタ、カネロニのクレープ巻き、仔牛のロースト、ティラミス。まあまあ可もなく不可もなく、恵子先生の仔牛が固くて半分交換したものの、わたしでも固くて食べられなかった。デザートはティラミスも 1/4 は残す。

これだけの人が一挙に帰るのはどう考えてもイタリアでは無理なので、食後のコーヒーはパスして、御先にと失礼する。よくわからないシステムながら店員さんにタクシーを頼むと、お前は Londora14 だ、といわれ依然として謎のままである。タクシーを待っていると確かに Londora14 というタクシーがやって来た。なるほど。もうすでにタクシー乗り場はごった返している。出ようとしたところに、ベルギーの女性ふたりがサンタマリアノヴェッラに行くので相乗りしてもいいか、というので OK する。タクシー代をおごって、その代わりベルギーで IBC をやっ

て俺を招待しろ、と大笑いし、ふたりとはホテルの前で分れ、もう 12 時にならんとしているのでおとなしくシャワーを浴びて 12 時 40 分に死に寝。

## 11 日(金) 学会最終日

8 時過ぎに朝食に降りていくと和泉先生がいて、夕べはどうしたのか聞くと、思い出したくないとのことで、どうやらみんなと食事に行ったところのワインがよくなく、1 杯飲んだだけなのに二日酔いとのことで、梅干し茶を飲んでた。この日のために?、日本から梅干し持参で来たようだ。二日酔いのことは書かないで下さいというので、例によってここにそのことも含めて書いておく。部屋に戻って、10 時から山本先生、鎌倉先生の発表なので恵子先生は部屋に、わたしは会場に。山本先生の発表はよかった。

コーヒブレイクのときに寒水先生に夕べはどうしたのか聞くと、伊藤先生、和泉先生ら 7 人ででかけたとのこと。『こいつらか』と心の中でつぶやく。今夜は山本先生と一緒に食事に行かないか誘ったところ、浅川さんも一緒に行くことに。鎌倉先生、「最終日だから発表者しかいないんじゃないかと思っていた」というので、そんな失礼なことはいたしません。魚住さんのセッションへ。魚住さんもどうしてどうして、発表はどうどうたるものだった。

この会場は一般講演とコーヒー・昼食の会場が別れているのが難点で、また昼食会場に戻る。ポスターのところをうろろろしていた恵子先生を捕まえ、今日は少しお昼を食べることに。チキンサラダ、ハムサラダ、クスクスを少しだけ。鎌倉先生は奥さんにバスソルトを買ってこいと言われているようで、恵子先生がバスソルトだったらサンタマリアノヴェツァ薬局で買うといいですよという、奥さんにはそこで買ってこいと品目まで指定されているとのこと。一足先に日本に帰るとのことので和泉先生は空港へ、鎌倉先生はお弟子さんと薬局に、というのでわれわれもここで失礼することにして、これにて IBC2014 は終了。田栗先生、ごめん。

伊藤先生も加わり、7 時にホテルのレセプションに集合する。みなになにが食べたいか聞くと、一通り食べたし、なんてどうでもいいことをいっている。フィレンツェでは多くの店が予約を必要としているので、ホテルから Mangiafoco というワンバーに電話してもらおうと、よかった予約が取れた。ぶらぶら歩いてみなで Mangiafoco へ。まずは名物のハムチーズ盛り合わせ、なすとパルメジャーノのサラダ、ズッキーニの花のタリオリーニ、タリオリーニの白トリュフクリームソースを頼み、さてこの料理に合うワインは、と尋ねるとトスカーナの白を勧められる。一番フルーティーなものを頼み、これまたおいしい。みなさん赤ばかり飲んでたようで、白を飲むのははじめてとのこと。ハムの盛り合わせは普通の生ハムとサラミに、みたことのない生ハムが 2 種類あり、このみたことのない生ハムがとてもおいしかった。またチーズにはビールとジンジャーのジャム、赤ワインのジャム、白ワインのジャムがついていて、これまたおいしい。なすとパルメジャーノは、メニューにはサラダと書いてあるが、なすをスライスしてソテーしたものに、フレッシュトマト、モッツアレラ、パルメジャーノの薄切りが載ったものでこれもおいしかったが、それに輪をかけて平打ちのパスタ 2 種がどちらもうまく、フィレンツェに来てはじめておいしいパスタを食べた。みなさんもこのパスタには満足していたようである。

赤ワインも飲もうとキャンティクラシコを追加し、生ハムの盛り合わせとラザーニャを追加。生ハムは普通、しかしラザーニャはこれまたおいしかった。市場に言った話をして、小海老のフライがうまそうだったという、寒水先生がぜひ食べたいと言いだし、明日空港に行く前に食べに行こうと山本先生を誘うのであるが、市場のフードコートは 10 時からなので無理。夜の 12 時 1 分までやってるよ、というこれから行こうと息巻いている。9 時くらいに Mangiafoco を出て、ジェラートを食べに行くからとみなとわかれペルケノでジェラート。

フィレンツェ最後の夜の締めは三度目の BrewDog。例によって Jack Hummer と、Old Word IPA、Sub Hop、Shipwreck Circus。店先で座って飲んでいると、風が心地よく、いい気持ちなので最後にもう一杯、と Unleash American Ale のハーフパイント。楽しく飲んでいると、目の前を寒水先生と山本先生が。ほんとに市場で小海老のフライを食べてきたとのこと。また明日空港で、と別れホテルに戻ると途中のアイリッシュパブで東大の松山先生、篠崎先生、横市の坂巻先生がビールを飲んでいて。

これでフィレンツェの滞在も終わりである。